

ヤマイワカガミの紅花品

浅野 一 男

K. Asano: A new form of *Schizocodon intercedens*

本誌22号(1989年)に筆者は、長野県下伊那郡に分布するヤマイワカガミの紅花品について、ベニバナヤマイワカガミ forma *rubiflorus* Asano の名を用意して予報した。今回ラテン文を添えて正式に発表する。

信州大学教授豊国秀夫博士には、本報の執筆についてご懇篤なるご助言とご配慮を賜った。ここに深甚なる謝意を表する。

Schizocodon intercedens Yamazaki forma *rubiflorus* Asano, forma nova

Haec planta a forma *intercedenti* corolla rubra nec alba diversa.

Nom. Jap. Benibana-yamawakagami (Asano, nov.)

Hab. Hondo. Prov. Shinano (Nagano Pref.): Iida

city; Mt. Kan'nomine, Kamihisakata (K. Asano, no. 90 187-SHIN), Kirara ca.640m, Tatsue (K. Asano, Aug. 17, 1989, no. 92356-SHIN; K. Asano, Apr. 15, 1990, no. 94 001-holotype SHIN), Izuki, Miho (M. Muramatsu, Apr. 3 0, 1957-Herb. Shimoina-kyoikukai). Shimoina Distr.; Himemiya, Kamisato-machi (K. Asano, no. 89186-SHIN), Hirase, Seinaiji-mura (K. Asano, no. 90345-SHIN), Tomikusa-mura (M. Muramatsu, Apr. 24, 1945-Herb. Shimoina-kyoikukai), Jibuzakatoge ca.1260m, Namiai-mura (K. Asano, May 14, 1989, no. 91398-SHIN).

付記 浅野一男氏のベニバナヤマイワカガミの正基準標本(holotype)は信大植物標本室(SHIN)に保存(標本番号Na132789)されています。(豊国秀夫)

塚田松雄先生の講演会について

平成元年11月14日(火)、本会では第132回例会として信州大学教養部生物学教室との共催で、米国ワシントン大学の教授である塚田松雄先生の講演会を開催しました。演題は会記にあるように「日本列島における植生帯の変動」で、当日午後5時30分から始まり、1時間の予定が、1時間もオーバーしてしまいました。それは、聴講者が70名におよび、質問が非常に活発に出て、途中で打ち切るに忍び難かったからです。特に学生の聴講者の質問の内容が高度で、先生は大変喜んでおられました。

ここで、塚田先生のご講演会が何故可能になったかについて、先生のご紹介も含めて述べさせていただきます。

本誌22号に紹介した、国際バイオシステムティクス・シンポジウムが日本で昨年7月に開催され、その出席者の一人であった米国ワシントン大学の教授である Arthur R. Kruckeberg 博士から、どこか蛇紋岩地帯の植生が見たいというご連絡があり、白馬連峰の蛇紋岩地帯を一緒に歩くことに致しました。その時、Kruckeberg 教授と同じワシントン大学の塚田先生から、この登山に同行したいというお申し出があり、結局3人で白馬連峰を歩きました。たまたま、11月に植生史研究会の会合で再び日本に来られるという事をお聞きし、先生にご講演をお願いしお引き受け戴いた訳です。



写真 ご講演中の塚田松雄先生

先生のお話は、スライドを使用し、最終氷期以降の花粉分析による植生の調査・復元方法を述べられ、日本列島でどのように植生が変わってきたかを論じられました。幾つかの代表的な植物の花粉の走査電顕像はすばらしく、また多数の表やグラフを使用され非常に明解なご講演でした。

植生帯の変遷は先生の大学院生時代のテーマで、白馬岳の北東麓の桐池を中心とした地域の湿地帯で花粉分析を詳細にされており、その後も、幾度か来日されて、幾つかの地域でボーリングにより、花粉調査をされているので大変迫力のあるご講演でした。

(豊国秀夫)